

# 会議録

令和5年8月16日提出

会議の名称	西東京市公民館運営審議会 令和5年度第2回定例会
開催日時	令和5年6月21日(水) 18時30分から20時10分まで
開催場所	柳沢公民館 視聴覚室
出席者	委員：西原みどり(会長)、小須田厚子(副会長)、辻康一、荒井茂、小池教之、下坂小百合、石川健、青木美紀子、ギログリー江美、城石雅行、松本静、荒井容子 職員：福所館長、市川事業係長(柳沢)、山本分館長(田無)、國府方館長補佐(芝久保分館長)、一之瀬分館長(谷戸)、長谷部分館長(保谷駅前)、星野事業係主査
欠席者	高橋浩一、高井正
議題	1 審議事項 (1) 令和4年度第10回定例会会議録(案)について(資料1) (2) 令和5年度第1回定例会会議録(案)について 2 主催事業について (1) 令和4年度公民館主催事業報告について(資料2) (2) 令和5年度公民館主催事業計画について(資料3) 3 報告事項 (1) 行政報告 (2) 公民館だより編集室報告 4 事務連絡及び情報交換 (1) 令和5年度第3回定例会の開催について (2) その他
会議資料の名称	【配布資料】 資料1 令和4年度第10回定例会会議録(案) 資料2 令和4年度公民館主催事業報告書 資料3 令和5年度公民館主催事業計画書
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
傍聴者	<input checked="" type="checkbox"/> あり(3名) <input type="checkbox"/> なし
会議内容	<p><b>1 審議事項</b></p> <p>(1) 令和4年度第10回定例会会議録(案)について(資料1) ●令和4年度第10回定例会会議録(案)について承認</p> <p>(2) 令和5年度第1回定例会会議録(案)について ●令和5年度第1回定例会会議録(案)については、各自内容を確認し、1週間以内をめぐりに修正意見を公民館に送ることとする。</p> <p><b>2 主催事業について</b></p> <p>(1) 令和4年度公民館主催事業報告について(資料2) ○A委員 ライフデザイン講座「仕事なんか生きがいにするな～生きる意味を再び考える～」(柳沢)について、オンライン参加と会場参加両方のハイブリッド式で行ってとてもうまくいったのだと思う。参加者の感想で、公民館講座に期待してなかったのにとってもよかったとある。20年以上前に、鶴ヶ島市の公民館の職員が、男性を対象に、男のリラクゼーション学という挑戦的な講座を行ったことを思い出した。大事につなげていってほしい。</p>

○事業係長

思った以上に反響があった。オンライン参加も当初見込んでいた 20 人を超える 31 人の申込があった。回が進むにつれて、2 週間に 1 回の講座だが、参加者にとって安心できる場所になっていくことを感じた。講座が午後 9 時半に終わるため、参加者の交流の時間はとれなかったが、講座終了後、参加者から要望があり、交流会を行った。今月末に 2 回目を行う。20 歳代～50 歳代の公民館の利用が少ない世代をつなぎとめ、いかに公民館活動にかかわってもらえるかが課題。今年度も同じ趣旨で続けていきたい。

○B 委員

ライフスタイル講座は今回、2 回目だが、1 回目は大変苦勞されたことを知っているのに、今回は成果がありよかったと思い、報告書を読んだ。交流会の様子を教えてほしい。サークル化できるといいと思う。「地域づくり未来大学～地域課題を捉え、まちの豊かさを考える第一歩～」（柳沢）について、参加者の評価に「世代で様々な考えがあること、市や地域を良くしたいと思う市民が沢山いることを知りました」とある。先日、参加した集まりで、西東京市は市民力が高いという声が多く出た。そして、それは、公民館が市民の学びを支えてきてくれたからではないかという意見も出た。地域づくり未来大学のような学びの場が常に提供されていることが市民力が上がっていく力になっていると感じる。公民館のない北部地域でも継続的な市民大学を行ってほしい。ニーズはあると思う。現代社会を考える講座「1950 年代から「いま」を考える」（柳沢）について、重い、内容の濃い、深い講座だが、継続して学んでいる人たちがいる。このようなニーズがあることを大切にして、こうした講座も公民館は続けてほしい。

○事業係長

ライフデザイン講座参加者の交流会には 15 人くらい集まった。講座でファシリテーターを務めた方に進行をお願いして、講座の感想と受講して考えが変わったことなどを話してもらった。話しながら涙を流す方もいた。今後、サークル化するにあたっては、読書会や一緒に動画を見るなど、生きづらさを感じる中でのガス抜きになるような活動になったらいいのではないかと話し合った。地域づくり未来大学については、地域にどんな課題があるかを知り、課題解決に取り組んでいる方の話を聞くことを通して、自然にまちを知っていくことが、まちに愛着を持つことにつながったことがうれしかった。今後もこうした内容を続けていきたい。

○C 委員

今回はとても内容の濃い報告書だった。全体的に感じたのが、職員の位置が、前に出てリードするのではなく、基本的に参加者の声を聞く立場に徹しつつ、随時、必要なサポート、課題を投げかけて長期の講座を進めているということを感じた、それが、感想の中に出ている。「第 14 回ひばりが丘フェスティバル」（ひばりが丘）の参加者の感想には「職員の方々の熱意を感じました」とある。現代社会を考える講座（柳沢）についても、参加者の感想に「講座に携わったすべての方々に感謝」とある。とても気持ちのよい感想がそれぞれの報告書に出てきている。継続性のある講座が多かったこともあるが、職員の日線や質、考えが参加者に伝わっていたのだと思う。ムービールーム柳沢特別企画ドキュメンタリー「カレーライスを一から作る」（柳沢）について、夜にも上映を行ったところ、親子での参加もあったとある。今まで、夜間の上映はしていなかったのか。夜間の上映会があれば私も参加できると思った。

○事業係長

映画会を年間 24 回、開催していた時期は夜間も上映していたが、開催回数が 6～7 回になってからは、高齢者向けに、気軽な居場所となるように平日の昼に上映している。今回は特別企画として、ドキュメンタリー映画を上映したが、2 回上映が可能な作品だったので、昼間では参加できない方向けに夜間も上映した。

○C 委員

BOSA I カフェ（柳沢）は、柳沢公民館の地域防災講座参加者有志が企画運営に携わっているが、先日の東京都公民館連絡協議会総会で配布された実践記録集の中に、地域防災講座の講師である小野修平氏の事例報告が掲載されていて、BOSA I カフェに至る経緯がわかる。職員と何度も打ち合わせをして 5 年かけて辿りついたこと、新しい講師の立ち位置を示したいと考えていること、参加者と一緒に学んできたこと、それが柳沢公民館だけでなく谷戸公民館

等の実践につながったことなどが報告されている、

○D委員

全体について、参加者の評価を読んで、内容がよかったのだと感じた。ライフデザイン講座（柳沢）について、オンライン参加者を当初の定員より多く受け入れたとあるが、オンライン参加の場合、上限を設定することなく、何人でも受け入れ可能なのか。

○事業係長

当初、つながらない人が出た場合の対応を考え、定員を20人と設定したが、申込が多く、つながらない場合の対応ができないことがあることを伝えた上で31人まで受け入れたが、混乱は起きなかった。今回の経験から、運営形態にもよるが、聴講型の講座については、30人程度まで受け入れ可能と考えている。

○A委員

情報提供として、現代社会を考える講座（柳沢）の参加者の感想に、朝鮮戦争の時、町を戦車が通った事が書かれているが、『戦車闘争』というドキュメンタリー映画がある。

○B委員

本日、欠席の高井委員から、「地域づくり未来大学（柳沢）について、担当職員が、最終人数が減少することを課題としてあげているが、この内容について説明してほしい」という質問がメールで届いている。

○事業係長

講座は、前半は地域で課題解決に取り組む人の話を聞き。後半は地域の課題は何かを自分で考え、解決に向けて企画書を書くという構成だった。参加者の中には、前半だけでよいという方もいた。後半も残った人たちは熱意があり、自主サークル化し、今月、イベントを行った。

○E委員

ムービールーム柳沢（柳沢）について、20歳代～50歳代向けに行うとしたら、いつ開催するのがよいと思うか。

○事業係長

以前は、金曜日の夜間に行っていたが、ライフデザイン講座の経験から考えると、花金を避け、木曜日の夜間がよいのではないか。

## (2) 令和5年度公民館主催事業計画について（資料3）

○B委員

教養講座「これから韓国文学を読む人のためのやさしい現代史入門」（ひばりが丘）について、文学を取り上げてほしいという要望に応じて企画していただき、うれしく思う。作品はどのように読んでいくのか。

○事業係長

今、韓国文学、特に韓国のフェミニズム文学が関心を集めている。今回の講座は、韓国文学を深く理解するために、韓国の近現代史を学ぶという趣旨。作品を読み込むのは、講座終了後に個々で、ということになると思う。

○B委員

高校生が考えた親に教えたい講座「スマホから始まる親子関係」（谷戸）について、内容を伺いたい。どのように行われるのか、関心があるので、ぜひ見学させていただきたい。

○分館長（谷戸）

構成は、市内在住の高校生2人が帰国子女である自分たちのことを話すのが第1部。行動心理学を用いた「親子の仲を深める方法」と、「スマートフォンとパソコン—どのように付き合うか—」のプレゼンテーションを行うのが第2部。参加者には事前にスマホの利用についてのアンケート調査を行い、スマホやオンライン機器の親子間の意識や理解の違いや矛盾から始め、相互理解を目的とするディスカッションを参加者同士で行う。要所、要所と最後に、心理学者・教育学者・教育カウンセラーの諸富祥彦明治大学教授にコメントをもらい、親世代と子世代の相互理解を深めていく。

○C委員

1回の講座だが、最低、3回は必要ではないか。

- 分館長（谷戸）  
好評であれば今後検討したい。
- A委員  
谷戸公民館は、青少年をターゲットに講座を実施しているが、青少年は、今後の公民館の担い手になる。輪を広げてあげるような運営をしていただきたい。
- C委員  
地域連携講座「落語っておもしろい！あなたもハマる落語の世界」（保谷駅前）について、担当者を職員全員とした意図は何か。また、小学生、中学生も演じるが、保谷落語愛好会のメンバーなのか、参加者なのか、内容を説明していただきたい。
- F委員  
保谷落語愛好会の代表である私から説明させていただく。子どもも対象にしている事業であるし、会のメンバーに小学生、中学生もいる。柳沢周辺の7、8の高齢者施設で公演してきたが、保谷駅前公民館の主催講座から発足した会なので、分館長から相談を受け、公民館事業としてやってみようと引き受けた。地域の方たちに落語を楽しんでいただくとともに、参加した方にも落語を体験していただく内容になっている。
- 分館長（保谷駅前）  
他館が実施しているサークルと一緒にやる事業が計画にはなかったもので、F委員に協力していただいて企画し、職員全員で担当することにした。
- D委員  
高齢者の課題を考える講座「老いる不安を生きる希望へ 認知症へのあたらしいアプローチ」（ひばりが丘）について、認知症になるのではないかと不安を抱いている高齢世代や近い世代が対象なのか、家族にそういう人や認知症の人を抱えている、下の世代が対象なのか伺いたい。
- 事業係長  
この講座は、昨年度もほぼ同じ内容で実施している。もともとは認知症の人を支える側の下の世代を対象として想定していたが、実際に受講したのは、当事者になる世代がほとんどだった。定員を超える申込があり、多数の人を断らざるを得なかったため、今年度も、ほぼ同じ内容、講師で企画した。だれでも受講できるが、昨年度の経験から、当事者の世代を想定している。
- D委員  
自分が対象となるかわからなければ問い合わせればよいし、間口が広く、興味があればだれでも参加できるのはよいと思う。
- B委員  
「夏の中学生ボランティア(SDGs サポーター編）」（田無）について、川の清掃をして学ぶという内容で、計画書には田無第一中学校と田無第四中学校で募集するとあるが、公民館だより等で、どのように募集を行うのか。
- 分館長（田無）  
安全を考えると多くは受け入れられないが、田無第一中学校と田無第四中学校での募集で定員に達したので、公民館だより等では募集を行わない。
- A委員  
「夏の中学生ボランティア(SDGs サポーター編）」（田無）について、ボランティア活動後に証明書を発行するのはどうしてか？
- 公民館長  
証明書は公民館で発行する。ボランティア活動を頑張ってくれてありがとうという意味でお渡しする。
- A委員  
公民館的ではないと思う。水辺をどう守るかなど、深く取り上げることもできる。清掃に参加してきれいになってよかったという事業に終わらせないでほしい。証明書を出すことを超えた成果を期待する。
- G委員

証明書がほしいからボランティアに参加するという生徒はあまりいないと思う。ただ、ボランティア活動後にそうしたものを渡されれば、もらったうれしさはあるだろうし、自己有用感も感じると思う。ボランティアで地域に行き、普段学校では出会わない方たちとふれあい、評価されることで、自己有用感は向上する。多くの生徒たちが応募したことを嬉しく思う。今後、ボランティア活動を行った生徒が、ほかの生徒たちに、体験したことや考えたことを発信していける場を提供することが大切であると思っている。学級活動の中で時間を確保するのは難しいが。

#### ○C委員

暮らしに役立つ実学講座「スマホの安全な使い方教えます」（芝久保）について、高齢者向けに企画されたものだが、周囲に教わる人がいない方は、関心をもって参加すると思う。中には、孤独な方、人と接するのが苦手な方もいるのではないか。スマホの使い方を学ぶだけにとどまらず、講座に集まった方たちが顔を合わせて、話をしたり、仲間をつくったりする、高齢者の新しい場づくりにつながるような講座にしていきたい。

#### ○分館長(芝久保)

令和4年度の防災講座で、災害時に公的な情報を入手するアプリを紹介したところ、アクセスできない人が多かった。そこで、災害時に情報弱者を生まないために、高齢者を主な対象として、本講座を企画した。講師はセプロスに依頼しており、下坂委員はアシスタントの一人。

#### ○H委員

シニアがスマホやPCの操作ができるようになること、ウィルスの危険性等、基本的なことを学ぶことを目的とした講座で、講師、アシスタントを務めるセプロスのメンバーは、いずれもデジタル庁のシニア情報生活アドバイザーの資格も持っている。

### 3 報告事項

#### (1) 行政報告

##### ○公民館長

今回は2点ある。1点目は第2回市議会定例会について。公民館に関する一般質問はなかったが、「公民館だよりの広報に関する陳情」があり、文教厚生委員会で審議された。令和2年度から、公民館だよりは、紙面については2面10回、4面2回で、毎月発行で、全戸配布されている。それ以前の紙面は4面だったが、令和元年度の事務事業評価で「抜本的見直し」という評価により、紙面を縮減し、現在に至っている。見直しにあたって、当時の公民館運営審議会からも意見聴取しており、毎月発行と全戸配布の堅持、地域情報の掲載という要望が出された。平成30年3月に公表された教育計画策定のためのアンケート調査では、公民館だよりを必ず読む人は20.5%、時々読む人は43.1%、63.6%の人が公民館だよりを読むという回答だった。70歳以上では、必ず読む人は42.6%、時々読む人は38.6%で、8割を超える人が公民館だよりを読んでいる。文教厚生委員会でも、委員も公民館だよりをよく読んでおり、貴重な意見をいただいた。公民館だよりは西東京市の宝という意見もあった。最終的には不採択になったが、ありがたい陳情だったと思う。公民館では、今後、公民館だよりに加えて、市ホームページやSNS等を活用して、広報を充実させていきたい。公民館だよりもよりよくしていきたいので、これから、公運審でもご意見をいただきたい。

2点目は、6月14日(金)に田無第一中学校で、1年生を対象に「西東京市を知ろう」という授業が行われた。その中で「公民館について知ろう」という時間が設けられ、6クラス199人へ向けて10分程度、公民館について話をした。公民館は、集う、学ぶ、つながる場であること、団体が利用する施設であること、ロビーは個人で利用できること、田無公民館ロビーではWi-Fiも使えること等を、K-POPダンスの講座を例に説明した。

#### (2) 公民館だよりの編集室報告

- 事業係長より6月19日開催の編集室会議について報告。

#### (3) 図書館計画策定懇談会報告

- 担当委員より6月21日開催の第3回図書館計画策定懇談会について報告。

#### 4 事務連絡及び情報交換

##### (1) 令和5年度第3回定例会の開催について

日時：令和5年7月19日(水) 午後6時30分

場所：柳沢公民館 視聴覚室

##### (2) その他

- I委員が第35回谷戸まつりについて報告